

2022年度関東支部研究活動 活動テーマ募集一覧

No	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
1	D2C	IT企業のSE、及び、ユーザー企業の情報システム部門	今後のD2C領域の展望	米国ではB2CビジネスからD2Cビジネスへ広がりを見せている。日本ではまだあまりなじみがない言葉であるが、今後ITやデジタル活用によりD2C形態でのビジネスが広がる可能性がある。そのリサーチと社会実験ができるとよい。
2	IoB	IT企業のSE	IoB(IoTからの進化)	トレンドワードとしても挙がっているIoB(Internet of Behavior/Bodies)について、その前身とも言われているIoT(Internet of Things)からの進化過程も含め、今後の展開・メリット/デメリット等について検討する。
3	NFT	IT企業のSE、及び、ユーザー企業の情報システム部門	NFTを活用したビジネス開発	一時期ブロックチェーン技術が仮想通貨の台頭と合わせて表舞台に出てきたが、実際の所ビジネスで継続して活用されている事例は少ないようだ。しかしながら、ここに来てNFTの技術を活用したデジタルアートやクリエイター商品の販売やオークション等が脚光を浴びている。そのNFTとは何者かを研究し、ビジネスへの活用を探る。
4	エドテック(学習関連の技術)	ユーザー企業の経営戦略・人事・情報システム企画	エドテックを取り入れた「未来の教室」	エドテック(EduTech)は、教育(Education)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語。金融業界のFinTechや食品業界のFood Techなどのように、「○○に関する新技術」という意味合いで「○○Tech」という表現が用いられるが、エドテックもその一つといえる。教育・学習領域では、学習アプリやオンライン学習の配信サービスなどのほか教師や教員が生徒の学習を管理するためのツールも導入されている。教育・学習領域でテクノロジーを活用することで、教育現場の効率化や教育格差の解消などが期待されている。
5	グラフデータベース	指定なし	グラフデータベースを活用した関係性の見える化	データのつながりを表現できる、ネットワークやグラフ構造を扱った「グラフデータベース」が注目されている。例えばFacebookやLinkedInなどのソーシャルメディアが、ユーザー同士の関係性を表すソーシャルグラフを格納するために使っている例がよく知られている。グラフデータベースを活用してビジネスに役立てるためには？グラフデータベースはどのような用途に向いているのか？を研究する。
6	ゼロトラスト	IT企業のSE ユーザー企業の情報システム部門	クラウドおよびリモートワークの進展とそれに伴うセキュリティ対策	コロナ禍におけるリモートワークの進展に伴い、パブリッククラウドの利用が進んでいる。クラウドでは、デバイス認証およびログによる監視でセキュリティ対策をしているケースが出てきているが、従来型の閉域接続によるセキュリティとの併用による不都合が生じてきている可能性がある。ユーザー企業としては、本質的にセキュリティのどこに不安をもっているのかを議論したい。
7	ローコード開発、ノーコード開発	企業情シス部門	「開発しない」開発手法	ローコード開発、ノーコード開発が世に出て久しく、プラットフォームもだいぶ出そろってきています。しかし、プログラム開発技術を持たない情シス部門へ広く浸透しているかと言えば、そうでもないと感じています。「開発しない」この手法が最も適した業種は？とか、強味、弱みといったものを分析するのも面白いのではと思い提案します。
8	ヘルスケアプラットフォーム	全般	クラウド時代のヘルスケア	医療情報のIT化や、共有化が広く議論されている。コロナにより医療機関に出向くことが出来なくなるとも背景にヘルスケア分野のIT化やプラットフォームを提供するサービスが提供され出している。さらに、データ分析により個人に合わせたヘルスケアも可能となっている。今後さらなる広がりを見せるヘルスケア分野のIT化の方向性を深堀りする。
9	DX人材育成	IT企業のSE、及び、ユーザー企業の情報システム部門	DXを担う人材像と育成手段	DXが叫ばれて数年が経過しているが、真にDXを担える人材像とは？ 具体的にはどんなマインドやスキルセット、経験を経て活躍できる人材になるのかを、実モデルを通じて研究し、その育成手段やキャリアパスを提言する。
10	ダイバーシティ&インクルージョン	全組織対象	D&Iがあたりまえの時代	個人の信念や価値観、ライフスタイルなど、一人ひとりの違いを認め合い、多様性を受け入れる。企業・組織・チームが自律的に成長していくために求められる「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」とは。ポストコロナ時代を見据えた「強みや個性を活かした多様性ある組織のあり方」について研究する。

<関東支部独自テーマ>

新ビジネス創出の研究活動としてより深く、日本ユニシスグループの社員やスタートアップ企業に関わっていただく活動として以下のNo11と12の2つのテーマを募集予定

2つのテーマは次年度試行とし、研究活動全体の取り組みとは別に関東支部独自の取り組みとして以下のとおり実施予定

※No11と12のテーマは関東支部独自の取り組みのため、研究活動運営委員会の関与はなく、査読、審査、表彰対象とはいたしません。

No	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
11	オープンイノベーション	ユーザー企業の経営戦略・インキュベーション部門	企業とスタートアップの共創	オープンイノベーションの重要性は認識する中、より加速していくために必要なことを考察。企業のミッシングピース(主に技術やサービス)をスタートアップに求めるだけではない、企業-スタートアップ間の共創型オープンイノベーションを進めていく上での要点とは？ピッチイベントの視聴などを通じて企業内のオープンイノベーションの進め方についてスタートアップ企業から学ぼう！  【新たな取り組みポイント】 スタートアップ企業をアドバイザーに迎え、オープンイノベーションの世界を体験できる活動を予定しています。
12	セキュリティ技術、リスクベース認証、本人認証・照合	IT企業のSE、及び、ユーザー企業の情報システム部門	認証にかかるセキュリティ技術	エンドユーザー本人の認証や照合にかかる、セキュリティ技術(リスクベース認証など)の最新動向の研究や、その実装にあたっての設計思想や実装方式について考察する。  【新たな取り組みポイント】 テーマに精通したBIPROGY株式会社のシステムエンジニア1名が研究活動参加者としてエントリーし、一緒に研究活動をさせていただきます。アドバイザーについてもテーマに精通したメンバーが担当させていただきますのでより実質的な活動をしていただけます。